

# 高齢者施設における施設内療養時の喫食・飲水について

埼玉県保健医療部・福祉部

食欲低下や脱水により全身の状態が悪化する前に、嘱託医等に相談してください。

## ●ケアにおける注意事項

早めの気づきが大事！

- ・食欲が低下しているときは無理に食べさせなくてもよいが、飲水と排尿の回数をよく確認し、飲水はこまめに行う。
- ・悪寒を伴う発熱の場合は、悪寒が収まってから検温し、熱が高ければ解熱剤を使用する。  
(アセトアミノフェンは胃腸に負担がかかりにくいので、選択の優先度が高いと考えられる)
- ・飲水が困難な場合は、嘱託医等に早めに相談する。(輸液などの必要性を判断してもらう)
- ・高体温または低体温、呼吸数が早くなっている、声かけに対する反応が鈍くなった(いつもより意識レベルが低下している)場合は、全身状態悪化の徴候と考えられるので速やかに嘱託医等に報告する。(高体温の時は酸素飽和度が低くなりやすいので、経過を注意深く観察する)

## ●喫食・飲水のタイミング

- ・飲食できるタイミングで摂取してもらう。
- ・しっかり覚醒しているときに食事をとるようにする。(誤嚥性肺炎の予防になる)
- ・食欲が落ちているときは、一時的に流動食や高カロリー食(アイソカルやメイバランスなど)に切り替えることを検討する。

## ●脱水に注意が必要な時期:熱が下がってくる時期

- ・軽症者の場合は、3～4日で熱が下がってくるので、その間に脱水にならないように注意する。具体的には、こまめに水分を摂らせるようにするほか、発汗している場合は塩分も失われているので、経口補水液を摂取させる。